

鎌ヶ谷市政評価表

政策の名称	31魅力あふれるまちづくりを進めます		
基本目標	3「躍動感と魅力あふれる交流拠点都市」をめざして	政策担当マネージャー	都市建設部長
重点政策該当有無	○重点政策	マネージャー氏名	高地 健司

I 改革・改善内容(=政策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	実現可能な整備手法を選択しながら、短期、中期、長期の総合的な整備計画を策定し、市民の理解と協力を得た中で事業を進める。この中で、本市のまちづくりに大きな影響を及ぼす北千葉道路や東京10号線延伸新線の計画については、国、県、関係市との調整を積極的に行って今後の事業取り組みへの方向性を明らかにする。	③改革・改善内容	公共交通の整備では、広域幹線道路である北千葉道路事業を本市がリーダーシップをとり早期実現に向け、関係者との調整を図る。東京10号線延伸新線については、促進検討委員会において、実現について厳しい結果が示され、検討を中止し解散したことにより、検討を行わない。
②①に基づく取り組み結果	本市の魅力あるまち並みづくりを推進するものとして、景観形成基本計画を作成した。都市軸整備として、東武鎌ヶ谷駅西口地区の整備を進めている。鉄道新線事業については、実施の可能性について検討をおこなった。		

II 政策の目的・概要

①目的	対象	広域交流拠点の形成(新鎌ヶ谷エリア)都市軸の形成(新鎌ヶ谷・東武鎌ヶ谷・初富駅)魅力あふれるまちなみづくり 広域幹線道路事業や鉄道新線の検討	意図(対象をどうするのか)	鉄道4線の結節点である新鎌ヶ谷地区が県北西部を代表する広域交流拠点としての整備を進める。また、魅力づくりのため景観計画を策定し質の高い既成市街地の整備を進める
②政策の概要	広域交流拠点では、交通結節点として、景観計画に基づいたまちづくりの推進により、快適性、安全性、利便性を兼ね備えたにぎわいのあるまちを形成する。初富、北初富駅周辺は、新京成線の高架事業の進捗に合わせ、交通広場などの基盤整備を進め、利便性の高いまちを形成する。			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	東京10号線は整備の見込みがなくなった。新京成線の高架事業は平成29年度末に完成を目指している。東武鎌ヶ谷西口の整備は平成26年度に遅延する予定である。公共交通の利便性や安全性の向上はもとより、住み続けるための親しみのあるまち並みの形成が望まれています。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成24～25年度の施策の成果	景観形成基本計画作成に伴い、検討委員会等開催し25年度末に鎌ヶ谷市景観計画として告示した。鉄道新線事業については、千葉県、市川市とともに検討委員会において、事業の可能性について検討を行い、実現について厳しいとの結論から事業化の検討を中止した。新鎌ヶ谷駅の乗降客数は年々増加しており、事業所数も増加傾向で、魅力あるまちとしての熟度が高まっている。
------------------	--

②施策成果指標	指標名称	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	目標値(27年度)
			89,864	93,088	集計中	92,000
1	新鎌ヶ谷駅乗降客数(1日あたり)	人	89,864	93,088	集計中	92,000
2	新鎌ヶ谷地区事業所数	件	212	225	236	230
3	新市街地整備事業着手地区数	地区	0	0	—	0
4	鎌ヶ谷市を住み良いと答えた市民割合(市民意識調査)	%	—	—	52.2	50.0
5	既成市街地整備事業着手地区数	地区	2	2	2	1
6	市の景観への満足度(市民意識調査)	%	—	—	25.3	28.0
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						

③政策の事業費	平成24年度決算	平成25年度決算	市民一人あたり事業費(25年度決算)	平成26年度予算
事業費(千円)	384,282	144,648	1.3	244,543

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	高架事業に合わせ、初富、北初富駅前広場の整備を進め、基盤整備の機能強化を進めて行く。鉄道新線の検討が中止となり、跡地の利用について、検討が必要である。景観計画を策定した事から、今後景観条例等の検討が必要である。		
②総合評価	3一部未達成	③総合評価の理由	広域交流拠点の整備、都市軸としての各駅前広場の整備を進めなくてはならない。又、景観条例については条例(案)などについて検討中である。鉄道新線についても、現在千葉県企業庁と跡地取得について、条件等調整しているところである。

V 今後の方向性

①成果の方向性	→維持	②コストの方向性	↑増加
③特に重点化する施策	施策1 広域交流拠点の整備		
④上記方向性の説明	高架事業の完了と併せ、鉄道新線の跡地利用は、広域交流拠点のさらなる魅力向上に繋がるため、必要な用地となる。		